相葉

二月廿日　中

恩書院再評誠の儀

信州入道の書見たく、再び密々の評定なく、秋の風正に吹れ候ども、
そもつらねし銀燭豊いう兵賀をかぶりて、内大臣秀頼公諸
士こぞりて遠ざけ給ふ、大野道軒に和同の上也、今宮寺が
やさきし海陸に打徳く仕、二条道場に居合が
今後の振舞、最初の評誠の通、いかなる一無不審
なるべし、さりとて誠に相違なく明白なる証據なる
なし、こゝろん毋上と人質の一條、以聞きてあるとても、若や計策
の洩れ入れ、いつさま常兵のいたる通、何ゝ心なきに仕
細なりとて、ちばらく包み蔵せ、再後の吟味なり、
ばかりと、独り成時ばかり後悔なんかとて、毋上の殿主
もなく、このまたれすまされまじ、さて何ゝ心と富貴のみとし
き見て、大野道軒へ、乱れ入るた後の御注意、いかゝ故た
岡の御御心なり、その人道の方ひなるとも、かく御だうだう、君臣心根た徴
すきたに、の使ひ上洛大度たまゝ、
し、密誠ゆゝ帰るなどく、さんで極さく、からす道軒さん、若や
と誠、なずばく、上つゝとの常兵、公が、富人らぶとまんぐ、必竟
かゝの注意のそたに、岡東の手先を賜へ、まと寄げん庭意のそど、

久保

九月

読まうけて見るべし。こゝも時と人にもよるべきことなれば、御心深
きと書入れたれども、御くゝ賊馬、不寛の存じ立ちと大家かゝる者
を寛恕なりゝ、寛容過ぎて明なる事まるる開業を悔るかゝ當
家の御威を傷きたれば、別して海内公の御深恩なれば、崇敬
ら今度の御んひとらの御真断紛乱しくゝと聞を立くゝと述べ
たる、入道常兵衛様を直の「イヤ懐」道軒の言葉ながら、
義の疑をきん、其の家を軽くもなるる、今日のし紙、悔ケ傷るもの、
海の人数、傷の外に皆明白のり人、数れ人兵に練合の残さ、
知るたに二十傷、みをるんさん上顔、そうを、取紙しもせ成
敗行うん、道平かならぬに似せら道「アイヤ其のやうに似せら

が、すなわち上つかたの御男爵と云ふのは、一体御家柄八郎も根ぶ一元云へば見えぬが、凡そ天つの下の事、秋は四季八郎も根ぶ一元云へば見えぬが、物の根、彼の病とは喧嘩のおもひ共の風説の噂ひく

も根を切らねば命を失ふ、ナリヤ、ひとりのとぐこの、彼の一件は、

逆毒の根底、要じつめ、陰傑の、共の淫毒とこそ、

知らずや、常岳公の御毒見人、たこ子無事の所、屋敷ぐら拘

子宝、ひとなすは、如何を考へ、ガヤ、月の

まる俄客人べんべんごろのとろ〳〵人、ちとさやぐ〳〵

まいて、が人情味なの、ごろ親〳〵、なるまと庭訓さ、栄西

ちら、ツと内証の情誼ひうさん、公道は公道、ちとこの私事

秘の毒の御明断、ひとた解ちとこ存じ、ナ常、アシ、ちろ派

るところ、何のけの常あづ有ひたる私交にるの点、のばひとそ

すやた陽こと近ごろ逆毒たなじやすの、ものあひとは日ごろ

親ふ仕まつれど、さりとそこの君に、是派と見ちつ道、サ〳〵万

ひとつさちの派なきん、けの道、軒よりく派ちが

[illegible]

[illegible]

みな証人、解ぐ陰物の、繚眼んざ、モ、ご編ッて、汁わ、ち

し、海れどの、けの平ごろ、御内の人心、善く危

とさし、伝ちやち、後のとがめ、生中の、君つ、御毒、さちこ、ちこ、ちく

なじよらぬ人道の、言葉、ちならば、けの常道、常ひとた、縁なるぬ、

用紙

私印

△流れも悪を好まるるに故なりけるか常兵公さ△

[illegible]の市ヒと同盟なれ[illegible]と[illegible]ヤさて[illegible]道へ[illegible]ヤ大の道
[illegible]軒ヤさ[illegible]ア、さなぐらけれ人[illegible]傳へ不思議の[illegible]市ヒと
同腹[illegible]と疑たりも御[illegible]多なるに彼奴が[illegible]の思いたるし[illegible]ヤナニ
[illegible]常兵公一旦のおりつる[illegible]長者の[illegible]傳風[illegible]ガ[illegible]義を親と
[illegible]御手なる一つよに君のお[illegible]為二つ[illegible]御身の為御再度強ひ参る
[illegible]トヤなぐまで参頼公へ[illegible]道野ヤ[illegible]ヤとて[illegible]まで十分[illegible]雪溶
トヤなぐまで参頼公へ[illegible]道野ヤ[illegible]ヤとて[illegible]まで十分[illegible]雪溶
せめて[illegible]の市ヒ雪分の[illegible]所詮[illegible]ヤ[illegible]ヤ[illegible]道へ[illegible]ヤ大の上へ
[illegible]が、[illegible]の御[illegible]御[illegible]使さ[illegible]切[illegible]
[illegible]家御母公の御[illegible]早速御[illegible]使さ[illegible]切[illegible]
[illegible]ら[illegible]ぎ[illegible]ヤ[illegible]ぎ[illegible]ヤ[illegible]ぎ[illegible]ヤ

か物ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ぬけ上ハ仔細も[illegible]

[illegible]の旦元、無信利[illegible]

[illegible]

[illegible]

92

かゝる組織の所分、五一国東へ渡る迄
[illegible]家の成敗、国[illegible]戦[illegible]家の勝手なるべし
東[illegible]公の国東と秀頼公の主君をはしたなめさるか
[illegible]ばかりもなき、されしなどが[illegible]
元を誅滅[illegible]人縁故無き[illegible]
[illegible]と[illegible]分明、[illegible]
[illegible]が立腹、何とさやうでへ[illegible]
も[illegible]討手の[illegible]後へ残[illegible]七組[illegible]
信植入道[illegible]評議落着[illegible]
所人、[illegible]村長門守重成病中[illegible]

し異見も申合ずして、ほの方事一決致しきりに一旦お呼入家中
トいたせもなるべく道へヤア又てべりぐらり、若輩者の木村長
門、エ、彼れ一まず何とぞなしと、才長も安堵の分れ身、尚御異存
のわもだ、ぞ〳〵助廣たれも、御異存なくば君言上すぐ
さま七組〳〵討手の御旋、サ御異存なくば常サそれん道
ぐさまも七組くや呼せ〳〵ん異へ何とも言葉つめ、
事落着と見えし所、オ落れた陸にて〳〵ばし〳〵と
呼ぶ解もん〳〵急せ急げどもやかよ沙こ〳〵ますの〳〵め麻上天木村
長へ宇宙成折合正〳〵くかこまる常道見るす常オ〳〵こ〳〵
長門宇、イヤ〳〵ちこ〳〵喧、病ときこ〳〵がおこ〳〵しか道アイヤ慮

[redacted]

今日物事市〳〵京表す呉者の尚釣
のち出〳〵御し病と聞く結果さて〳〵こと宮城の一大事と細謹祖〳〵運
なく、上〳〵の慢れなじ〳〵なる〳〵勢て御評議〳〵じ〳〵なる〳〵
許〳〵けさるそれ〳〵し取るの〳〵取りなる押と重慢仕、〳〵今の御評議
家〳〵ぐ〳〵ちまし拝〳〵さる家存の家存の旨〳〵りまれば電報それ存じ
なぐ〳〵ら〳〵の大聲御家〳〵ん〳〵ん〳〵ひと〳〵朝〳〵参ると流
ち如く宿〳〵れまだ入直常安勢〳〵向〳〵若年とんかなら故常

用紙

陸奥ご病気、一昨の悪寒ばかり何卒別状なくさせたく存じ奉る

しかるに秀頼公、若くない但し、ハッと長門守殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時の記録とは云ふ議論なせしとは云ふまじ、サこれ、確さなら、
若しかくの如くなりなば、[illegible]何と云ふも、覚なしとやき
まんに、覚なき記録なりや記録[illegible]無し記録にそなへたるべき筆、なかんづく軍旅の記録
とてもあくまで無し記録にそなへたるべき筆、なかんづく軍旅の記録
まさに、家譜代の柱石なるべき道なり、[illegible]偽れ留置、たゞ平の世のみ[illegible]きりつもつの軍
[illegible]ば、[illegible]ヤアロウ、こい
場よりのみならず、流れを聞く、[illegible]月にて[illegible]雑兵多
[illegible]さらば故、[illegible]味方の敗北まのあたり
[illegible]ば、エ、お[illegible]事の一大事、あ[illegible]などが知ることなるべき大事どころ
[illegible]偽倫一を以て世の表を飾り、今天下大平なるべきつもつ
の家場とん[illegible]ヤアエ、関なる長[illegible]家、保東のくま[illegible]が、月を見て
[illegible]ぬか、サ、関東に[illegible]ひとこと、その御成敗を組
[illegible]知ること、[illegible]明白なる家紋なること、譜代の老臣を誅せらるる
[illegible]ば、[illegible]関東これをとがめ、上と禁紋とをふるさん民心離散するの
[illegible]んに、関東の内部をうけ逆意をつるが
[illegible]なるべやまると市の下が[illegible]関東の内部をうけ逆意をつるが
[illegible]定なるん、徳れを誅の罪なること[illegible]多大関東と衆を生ぜん[illegible]ヤア
[illegible]関東と[illegible]病[illegible]長[illegible]関東と何故
[illegible]関東の勢ひならず、天下民心の向
[illegible]ば、関東の老臣、而れ当時の物事[illegible]市を誅せらるる
家跡陽明にとどまらん、関東一統以来、[illegible]定まらぬ天下の諸

用紙

侯当家よりなびきたてまつるべきか、これ[illegible]くま鷹に餌食を
[illegible]る関東からずや、方々よく見くらべ、関東なし[illegible]を奉げ
て当家を頼奉さんこころなれば保まちくどき言語を尽まる
人情なれば、水もいきも必定名門をとる例の大御所が底深
きこころみ、思ひてはなるべし、公の一傳、或は関東の陽子虎、本多佐渡
ず苦国の計策、策の范増をもとりいれしかども敵の反間な
らんかとためらひつのせらるまず、只管二世の言葉を信じ誤りき
を正さずして蒙諸代の柱石をば御法談と何事ぞ今
対手と向けられなば且元さえこんなきれば北条を無
き家中と兼ねて北条
[illegible]者ならば血路を開き出ら

関東より帰順[illegible]いづれにせよ当家の不祥剣くの事
なれば関こゆるまじ、東西両家の戦端、戦い始るに
[illegible]ざるべし、いづれの名門の正しきを[illegible]ず、元来[illegible]の難題なれば
非力彼れよりなるに似されど[illegible]陸陸の中[illegible]新なし我れよ
り乱端を醸すとき天下挙りて[illegible]
[illegible]英の[illegible]側英の[illegible]崎合して天下の議たらん非力竟
に当家を偽り名正しからず戦に古来勝利[illegible]ることなし人心
義[illegible]に指さんか、[illegible]
を思ふたならば当家の安危を思ふべきなり御論戦ならん
んずる一まづ上使をさしこられ今一応人質の家臣細川

ちとゝぎすしなんとすること至而なんと事成り赤心ものたる覆
れて流るゝこと述べ難れ、さて
きてらまを去ばらく[redacted]を開き得ず常毎感[redacted]面を合ずへ義理明
障りる長門が系論、其の上てまつ一通上使つのもれてもし紙
てかまてんのらもあるおりたる不両様のもいづきて御教許なりし
独るごとしト[redacted]公へいのもん長門ゝ中保るもなと雪得
いすす給ばらあを考慮さ世られゝ問ふ紙さん、其のむね
市ゝ傳ふごとトのさまもたるあり家のもち「イヤそのの[redacted]成い
吐ひまもまん「逆」「やゝなのるなん「深ぎみさまト見かる同
もなく志ゝと立いでまゝ御母ぎみ御ゝのまなゝ

逆「イヤそのの秀頼ごの、[redacted]最前ゝ[redacted]御国所常毎どのをもとゝ
市ゝ最前の面ゝ只ゝ聞き[redacted]ゝまゝやさられど無
の[redacted]ゝ知ゝ御母ぎみ市ゝごのゝ[redacted]ゝ仕ゝ[redacted]ゝ
東せゝ寒ゝ[redacted]ゝ[redacted]ゝ中せゝなゝ[redacted]ゝ市ゝ
をゝと召寄せ其の仔細ゝ上雪分せんとなせられゝ
其の[redacted]ゝ[redacted]ゝ[redacted]ゝ[redacted]ゝ[redacted]ゝ
の母ゝ懐ゝ御ゝ御ゝ[redacted]ゝ心ゝ[redacted]ゝ
頼ごの親ゝ心ゝ知ゝず世の諸ゝ[redacted]ゝ
[redacted]手の事ゝ人心油断をゝ[redacted]ゝ体裁ゝ[redacted]ゝ
焼野のきぎす[redacted]ゝ[redacted]ゝ[redacted]ゝ[redacted]ゝ